

# 事業完了報告書（実行団体）

事業名:	親子の居場所・学び場としての絵本館の運営
資金分配団体名:	特定非営利活動法人北海道NPOファンド
実行団体名:	一般社団法人北海道ブックシェアリング
実施時期:	2020年10月～2021年12月
事業対象地域:	特定地域（道央圏＝札幌市・江別市・当別町・石狩市・北広島市等）
事業対象者:	週末を安心して過ごすことを希望する親子。学びや育みの不安の解消を求める親子。

Version 3.2

日付: 20xx年xx月xx日

## I. 事業概要

事業実施概要	本会が運営する「北海道学校図書館づくりサポートセンター」（江別市、蔵書約3000冊）を、月に4回（毎月第1、第3土日）、「親子のための絵本館」として無料開放し、居場所として利用してもらうほか、それぞれの分野の専門家による絵本セミナー、手づくりワークショップ、絵本セラピー、学びの教室などの無料講座を開き、くつろぎと育みと学びの機会を創出する。利用は予約制で、ソーシャルディスタンスの確保と、プライバシーの観点から、一日最大12人までとする。また、社会福祉や大学連携、若者の交流、児童クラブなどの機関を持つ大麻銀座商店街というロケーションと連携を活かし、暮らしのバックアップにつなげていく。
--------	--

## II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	ニーズについては新型コロナの影響の長期化による学校図書館の閉鎖やステイホームに伴い、想定以上の利用数となった。緊急事態宣言の長期化（令和3年5月16日～6月20日）によって、その間の事業実施が困難となり、事業期間の延長を行った。一方で、実施計画の10～20人程度を対象としたワークショップに関しては、感染拡大防止の観点から小規模（3～5人）を限度としながら実施せざるを得なかった。ワークショップのなかでも大きめの空間を確保できた「えほんのぱくりっこ」と「えほんそうせんきょ」に関しては、予定以上の利用者を迎えることができた。 サポート態勢については、事業停止期間を除いては、人員・資材ともに順調に整えることができた。 本事業終了後においても、いぜん感染拡大状況は続いているが、社会においてはこれまでに得られた知見などによって、大きな「学びの途絶」は発生していないように感じる。しかし今後、どのように事態が推移するかはなお不明であることから、今後のアクションとしてはこのような大規模感染が発生した際における「学びの維持・学び場所の確保」に関する機関連携の構築が必要であると認識した。
-------------------	--

順調に

## III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	学習機会の不足/格差	コロナ期における休校や、緊張を強いられる日常のなかで不安を感じている子どもたちが、本に囲まれている空間で、安心して読書や学びを進められるようにする	「北海道学校図書館づくりサポートセンター」を学び場として開放し、学びの機会を創出	開催数 40回 利用人数（子ども）400人	開催数 48回 利用人数（子ども）429人	想定を超える受け入れをすることができ、指標・目標に対して一定の成果を挙げることができたと感じている。当初は「本来、行政が実施すべき事業では」との考えもあったが、NPOが実施することで、来場しやすい場づくりになったと感じている。
ひとり親	居場所の不足	コロナ期における休校や、施設の休館などにおいて、不安を感じているひとり親に向けて、親子の居場所として少人数で安心して滞在できる空間を提供することで、安心感と開放感を得られるようにする。	「北海道学校図書館づくりサポートセンター」を学び場として開放し、学びの機会を創出	開催数 40回 利用人数（おとな）100人 うちひとり親（想定数なし）	開催数 48回 利用人数（大人）198人 うちひとり親 28人	本会は図書に関係するNPOなので、ニーズへの対応も「読書と学び」に限定した。その部分での成果は見られたが、就労や家庭経済、家庭問題などへのニーズの見逃しがあったのでは、と感じている。包括支援的な体制や連携があれば、これらへの対応ができたのでは、という思いもある。

## IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）\*

事業実施以降に目標とする状況	長期にわたる休校や学びのシステムの中断があった際に、NPOを含めたさまざまなセクターが連携や情報共有を図り、あらゆる子どもたちや親子に、きめ細やかに対応できる体制を構築する。
考察等	休校における学校図書館の対応（開館や貸し出しなど）や、ステイホームの順守の強制の度合いは自治体や学校ごとに大きく異なる。教育委員会は基本的には子どもたちの自主的な学びに関与しないため、NPOなどにおいて情報の集約したり、対応措置を取ることは大きな意味があるということが、今回の事業を通じて理解した。本会は「子どもの読書」に特化したNPOであり、「学びのプラットフォーム」を構築する立場にはないが、その必要性を訴えるアクションを進めていきたいと考えている。

## V. 活動

活動	進捗	概要
アナウンス①（関係機関や施設へのチラシ・パンフレットの郵送および設置 ※以降、3カ月毎に実施） アナウンス②（札幌駅前通地下歩行空間での告知イベント ※以降、毎月実施） アナウンス③（報道機関へのリリース ※以降、3カ月毎に実施）	ほぼ計画通り	緊急事態宣言やまん延防止措置期間など、口コミが機能しづらい状況であったので、チラシ、イベントなどによってアナウンスが順調にできたのが良い結果となった。
第1回親子のための絵本館開始（2020年10月3日。以降、2021年9月まで毎月第1、第3土日に実施） 第1回親子のための講座開始（2020年10月3日。以降、2021年9月まで毎月第1、第3土日に実施）	ほぼ計画通り	新型コロナの影響の長期化による学校図書館の閉鎖やステイホームに伴い、想定以上の利用数となった。緊急事態宣言の長期化（令和3年5月16日～6月20日）によって、その間の事業実施が困難となり、事業期間の延長を行った。一方で、実施計画にある10人程度を対象としたワークショップに関しては、感染拡大防止の観点から小規模（3～5人）を限度としながら実施せざるを得なかった。ワークショップのなかでも大きめの空間を確保できた「えほんのぱくりっこ」と「えほんそうせんきょ」に関しては、予定以上の利用者を迎えることができた。サポート態勢については、事業停止期間を除いては、人員・資材ともに順調に整えることができた。
関係者による2020年度中間報告会を実施	中止	北海道における緊急事態宣言下であったことと、利用がそれほど進んでいなかったため、中止とした。
年度末報告会開催 2021年度体制に向けた協議を実施	ほぼ計画通り	関係者10名への資料配布のみ。
関係者による2021年度中間報告会を実施	計画通り	関係者5名に集ってもらい、事業進捗状況や途中までの成果の点検を実施し、後半の実施に備えた。
事業終了に伴う報告会を実施 実施報告書の制作	計画通り	関係者22名に集ってもらい、事業の成果やアウトカムに向けた考え方を点検してもらった。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	特になし。
---------------------	-------

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	現在までに「コロナ禍における学びの確保」についての国内総論的な調査研究はあるが、北海道内や本事業実施地の江別市においての事例研究や対応事業の集約などは行われていない。つまり東日本大震災の際にも見られたように、行政や教育機関においては「学校のカリキュラムの消化」だけが前景化し、子どもたちの「学びの質の変化」には無頓着、というより管轄外との認識なのだと思う。これは「制度的な教育スケジュールの消化」よりも「当事者における学びの質」に視点を置くEU諸国などと大きく異なる。制度設計がそうである以上、現場に入っているNPOが状況や活動を集約することには大きな意味があると感じている。
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
ココルクえべつ	「えほんのばくりっこ」の会場提供
大麻銀座商店街振興組合	「絵本館の運営」「えほんそうせんきよ」におけるアナウンスや会場提供
まちライブラリー@ちとせ	広報協力。図書に関する情報共有
3. 1 1 SAPPORO SYMPO	広報協力。講座企画の立案

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	3,500,000	3,083,812	88.1%
	管理的経費	820,000	836,835	102.1%
合計		4,320,000	3,920,647	90.8%
補足説明		特になし		

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	パンフレット第1号、第2号、第3号
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	パンフレット、パネル
4.報告書等	事業実施報告書

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 （実施予定の場合含む）（複数選択可）	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	